

笠置町

Kasagi Town

農村地域の暮らしぶりとは伝統行事の継承

ライフラインのない時代、農民の生活は自給、自足の生活である。

労働時間は、夜明けから日没まで朝飯前という言葉があるように、外が明るくなったら朝食の前までに一仕事を済ませて、食事をする。その後は、山仕事や畑仕事、炭を焼く事も仕事である。現在の様にガスなどと言う便利なものはなく、山で伐採した薪・柴などを燃やし暖をとったり、ガスの替りをしてくれる。

食糧は、田んぼで米をつくり、畑で野菜を作り、動物蛋白は各家庭に鶏を飼いそれを食糧にする。実際には、来客の時とかお祭り等祝い事などにしか農村では食べる事ができなかった。

もちろん現金収入にするのも、米・野菜等売りそれを収入に現金をもらう事になる。

労働時間にすれば長く企業であればブラック企業もはなはだしい時代である。夕食を済ませても男性は藁仕事をしたり女性は縫い物や編み物をする。いわゆる夜なべである。

このような生活の中で若い者はそのまま農民の生活をしていては現金収入や現代の生活から掛け離れると思えば次第に外に働きに行くようになる。現在は農村を守って来た人達は高齢になり田・畑は休田・休畑が多くなり、山仕事をする人も全くと言ってよい程いなくなっている。

伝統行事の継承での問題点は何より人口の減少である。少子高齢化及び若者の町外への転出。飛鳥路区内の行事を行う者は65才以上の高齢者である。現在区内に居る者全員で保全等をしている。そのため勧請縄行事の時は最低14~15名の人員が必要となる。飛鳥路出身者及び笠置町内外の方に協力を願っている。現在は総勢30名位で、にぎやかに勧請縄作りをしているが一番の問題は継承者の育成である。